

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会	主 査 名：濱田 幸雄 就任年月：2007 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (音環境運営委員会)	委員長名：井上 勝夫 主 査 名：大鶴 徹
設 置 期 間	2005 年 4 月 ~ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅の室内で発生騒音に関して、遮音性能評価水準を検討し、実務で生じる苦情等の是非に対する判断基準として活用できるようにする。 ・『建築物の遮音設計基準と設計指針』の背景調査。現状との乖離点の把握。 ・集合住宅の音環境調査(発生音の種類、レベル、大きさなど) 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：2008 年度に行った。 浜田幸雄(日本大学)、羽染武則(東急建設)、岩本毅(三井住友建設)、古賀貴士(鹿島建設)、大脇雅直(熊谷組)、木村和則(小林理研)、山下恭弘(信州大学)、坪井政義(大林組)、藤本一壽(九州大学)、大内孝子(東横学園女子短期大学)、田端淳(大成建設)	
設置 WG (WG 名：目的)	なし	
2008 年度予算	51,000 円	ホームページ公開の有無：なし 委員会 HP アドレス：なし

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 判例をもとに、遮音性能評価水準の扱われ方の問題点を把握した。 2. 『建築物の遮音設計基準と設計指針』の改定点を具体的に整理した。 3. 集合住宅の音環境調査項目を決定した。
委員会活動の問題点・課題	

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>1. 判例時報にみる遮音性能規準の問題点 現行の適用等級3級が受忍限度として裁判で捉えられていることが問題であるとの認識で一致することができた。この検討の過程において、適用等級の3級は、当学会が要求する最低限の目標値であることを明記して、法的な係争に使用するものではないことを広く伝える必要があることが確認された。</p> <p>2. 集合住宅の遮音性能水準として、現在一般に使われている『建築物の遮音設計基準と設計指針』に関する検討 a) 現行JISとの整合がとれていない箇所の抽出、改定案の立案。 b) 性能基準は設計目標値であることを明記することの必要性の確認。 c) RC造と、木造・鉄骨系は同等に評価できるかどうかの検討。 d) 室内騒音である給排水騒音に関しては、暗騒音により「聞こえる、聞こえない」がきまるので、運転時刻と暗騒音の関係、定常音が間欠音かで重み付けをすることを確認。 e) 住宅における要求水準の尺度例、表示尺度と住宅における生活実感の対応の例の全面的見直しを行い、改定案を作成。</p> <p>昨年度の活動成果報告において、アカデミックスタンダードと建築物の遮音設計基準と設計指針との位置づけが明確になっていないため、小委員会として方向性を決めにくい点を記載した。この点に関しては、音環境運営委員会の方針が明らかにされ、本小委員会としても、遮音性能規準のアカスタ化を視野に入れて、上記の具体的提案を行うまで検討を進めることができた。</p> <p>3. 固体音小委員会、企画・広報WGとの連携 遮音性能規準のアカスタ化を図るため、企画・広報WGにオブザーバとして参加し、情報の共有を図った。また、ポールを標準加振源とした遮音等級を構築するために、固体音小委員会の測定、聴感実験に協力した。これらの成果は、音シンポジウム、2009年度大会OSで発表される。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。